

## シラーの詩 “An die Freude” について ～第九の歌詞としてではなく～

徳島大学総合科学部 教授  
井戸 慶治

総合科学部公開セミナーは、一般の方や大学生、高校生を対象とした参加費無料の市民講座です。総合科学部の教員が、得意なテーマについて、わかりやすく語ります。

第19回は、総合科学部 井戸 慶治 教授が「シラーの詩 “An die Freude” について ～第九の歌詞としてではなく～」の演題で、お話しします。

表題の “An die Freude” (『喜びに寄す』) は、ベートーヴェン(1770-1827)の交響曲第九番第四楽章の合唱の歌詞としてよく知られています。もともとシラー(1759-1805)が書いたこの詩は、全体で100行に近い長いもので、喜びを女神のようなものとして擬人化し、それが人間界や自然界で示す多様なはたらきを讃えたものでした。ベートーヴェンは、当時進歩的な若者たちに酒席の場でよく歌われていた(酒は詩の内容の一部でもあります)この詩の高邁な精神に感銘を受け、若年期にも作曲を試みっていますが、最終的にはこの詩の前の方の三分の一程度を自由に用いて第九の合唱を作曲しました。これによって内容が単純化、統一化されて覚えやすいものとなりましたが、もとの詩にあった内容の豊かさは失われたと見ることもできます。ここでは、まずシラーがこの詩を書くに至った経緯と、詩の意味について概観したいと思います。そして時間的な余裕があれば、ベートーヴェンがこの詩に加えた改変についても触れます。

どうぞ、お気軽にお越しください。



第19回：2月22日(金) 18:30~20:00

対象：一般・大学生・高校生 参加費無料

会場：総合科学部地域連携小ホール(総合科学部2号館1階)

詳細：総合科学部HP <http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

申込み・問い合わせ先：徳島大学総合科学部事務課総務係

TEL：088-656-9779 E-mail：[sksoumks@tokushima-u.ac.jp](mailto:sksoumks@tokushima-u.ac.jp)